

中国語における「けど」類で終わる「言いさし」の扱い方

A Study of Unfinished Sentences Ending with
kedo (Iisashi-kedo) in Mandarin Chinese

田 昊

要旨

近年、学習者の母語を考慮する日本語教育が求められてきている。本稿はそうした観点からの研究の一例として、「言いさし」の「けど」類を取り上げ、『中日対訳コーパス（第一版）』、小説の会話部分をデータベース化したもの、及びドラマの台詞を文字化したものを用いて中国語における扱い方を考察した。同じ文脈で使用された中国語の会話文を考察した結果、「けど」類による「言い残し」の場合は、「けど」類の代わりに、接続表現を使用しない「省略型」及び接続表現を残す「省略型」の用例が多く見られた。一方、「けど」類による「言い終わり」の場合は、「言いさし」のマーカを除いて命題のみ述べる以外、語気助詞「啊/呢」を使用する例文も存在することが明らかになった。

キーワード：中国語母語話者、日本語教育文法、言いさし、「けど」類

1. はじめに

「けど」類による「言いさし」とは、以下の(1)のような、文の途中で話を終えてしまい、最後まで文を完結させない「けど」類（「けど」・「けれども」・「けども」・「けれど」・「が」）で終わる表現である。このような表現は、統語論的には不完全文であるにも関わらず、内容的には完全文と同じような機能を果たしており、日本語のコミュニケーションではしばしば現れる。一方、孤立語である中国語では、接続表現が形態的に拘束されずに使われるため、日本語のような従属節のみで使用される「言いさし」現象は存在しないと考えられている。

(1) 程さん：あけっぱなしで、だれもいねえのかい？

祥子：門は錠をおろしてきたけど。

我把大门给锁上了。

『駱駝祥子』

近年、日本語文法教育において、コミュニケーションという観点から批判や提案が行われ、「けど」類による「言いさし」は日本及び中国の教育現場において、重視されるようになってきた。それにもかかわらず、このような高コンテクストな表現は、中国語を母語とする学習者にとって難解であり、理解面も産出面も問題が出てきている（田 2013）。こうした現象は、母語である中国語の影響も関わっているのではないかと思われる。

そこで、本稿では、日中の会話文を考察することにより、日本語で考えられた「言いさし」の使用場面において、中国語でどのような言語形式で表れているかを明らかにし、中国語を母語とする学習者に対する「言いさし」に関する指導の一助としたい。

2. 中国語の複文の分類及び転折複文

2-1 中国語の複文

中国語では、「二つまたは二つ以上の意味上関連のある単文から構成される文」（劉他 1991）が「複文」と呼ばれている。また、複文は、「節と節とが対等の資格、つまり連合関係で結合した『等立・聯合複句(連合複文)』、及び「いずれかの節が主要で、他の節が付属的な関係、つまり主従関係で結合した『主従・偏正複句(主従複文)』」に大きく分類されている（鳥井 2004）。

さらに、鳥井（2004：79-80）では、「連合複文」及び「主従複文」はそれぞれ以下のよう

- I 「連合複文」は、次の四種類に分類されている。
 - i 並列複文「他去、我也去（彼が行き、私も行く）。」
 - ii 時系列複文「他首先去、然后我去（彼がまず先に行き、その後で私が行く）。」
 - iii 累進複文「不仅他去、而且我也去（単に彼が行くだけでなく、かつ私も行く）。」
 - iv 選択複文「他去、或者我去（彼が行くか、あるいは私が行く）。」

- II 一方、「主従複文」は、次の五種類に分類されている。
 - i 因果複文「因为我去、所以他去（私が行ったので、彼は行った）。」
 - ii 逆接複文（「転折複文」）「虽然我去、但是他没去（私が行ったが、彼は行かなかった）。」
 - iii 假定複文「如果我去、他就会去（もし私が行ったら、彼は行くだろう）。」
 - iv 条件複文「只要我去、他就会去（私が行きさえすれば、彼は行くだろう）。」
 - v 連鎖複文「我去哪里、他就去哪里（私がどこかへ行けば、彼はそのどこかの同じ所へ行く＝彼は私の行くところへ行く）。」

2-2 転折複文

中国語において、逆接関係を表す複文は「転折複文」と呼ばれている。劉他（1991）では、従属節が「ある事実を叙述し」、主節に「この事実在即して誰もが納得するような結果は述べられず、むしろ、それとはまったく反対、または、部分的に反対の事実を述べる」（劉他 1991：734）と特徴付けられている。

また、転折複文は、以下の三種類に分類されている（鳥井 2004）。

i 接続表現「虽然・尽管……、但是・可是・却……」が前後の両節にあるもの。黄（1990）では、「譲歩転折複文」と定義されている。

(2) 虽然他年紀大、但是身体很健康。
（彼は年をとっているが、身体は健康だ。）

ii 接続表現「……、然而・但是・可是・却……」が後の主節にのみあるもの。従属節に逆接を示す接続表現（「虽然」など）を提示せず、主節にのみ接続表現（「但是」、「可是」など）を用い、重い転折を表す。黄（1990）では、このような転折複文は「一般転折複文」と定義されている。

(3) 我以前看过这部电影、可是内容记不得了。
（昔、この映画を見たことがあるが、内容はもう覚えていない。）

iii 接続表現「……、只是・不过・倒……」が後の主節にのみあるもの。従属節には逆接を示す接続表現（「虽然」など）を提示せず、主節にのみ接続表現（「只是」、「不过」、「倒」など）を用いるが、軽い転折を表し、ii の「然而・但是・可是・却」より柔らかいと考えられている。黄（1990）では、「軽い転折複文」と定義されている。

(4) 川菜很好吃、不过有点儿辣。
（四川料理はおいしいが、少し辛い。）

3. 日中両言語における「けど」類の「言いさし」の使用実態に関する研究

「けど」類の「言いさし」に関する先行研究は、三枝（2007）、白川（2009）、荻原（2011）などのように、日本語の自然会話のデータを分析して使用実態を明らかにする研究が多く見られる。

一方、日中対照研究の視点から行われた、日中両言語における「けど」類の「言いさし」の使用実態に関する研究は、調べた限りで陳（1993）、李（2008）しか見当らなかった。

まず、陳（1993）は、「けど」「が」の用法を「逆接」「前置き」「終助詞的用法」「対比・対照」「時間的推移」に分け、中国語の「転折復句」を表す「但是」（dànshi）系（「虽然」「但是」「可是」「不过」「却」「其实」等）との比較を、翻訳小説を調べることを通して行っている。考察の結果として、「けど」「が」は、「但是」（dànshi）系より多く用いられ、「けど」「が」の五つの用法のうち、対応しやすいのは「逆接」であり、対応しにくいのは「前置き」「終助詞的用法」であると結論づけている。また、話し手の気持ちや発話態度を表す文末の「けど」「が」は、「中国語ではほとんど訳すことができないといっても、過言ではない」と判断している。

上記のような結論から、中国語における「けど」類で終わる「言いさし」は、ある程度存在していると推測できるが、話し言葉に現れているかについて明らかになっていない。その上、話し手の気持ちや発話態度を表す文末の「けど」「が」が中国語でほとんど訳せないという結論から、中国語においては、文末の「けど」「が」の発話意図はどのように伝わるかについて、更に考察が必要だと思われる。

次に、李 (2008) は、「言いさし表現」を、以下のように分けている。

- I 標識ありの言いさし表現：「けど」系や「から」などの接続助詞で終わる「言いさし表現」、及び格助詞「と (引用)」「って」などで終わる「言いさし」表現
- II 標識なしの言いさし表現：述部が省略される言いさし表現、及び副詞や感動詞で終わる「言いさし表現」(例えば：「何が……」「ちょっと」)

更に、発話機能とスピーチレベルの観点から、映画・ドラマのシナリオをデータにし、日中両言語における上記のような二種類の「言いさし表現」の使用状況を考察している。

結論としては、「標識ありの言いさし表現」では、日本語においては「丁寧体」レベルと「普通体」レベルに関わらず、「意志表示」「情報提供」の機能で多く使用されるのに対し、中国語においては「丁寧体」レベルではほとんど使用されず、「普通体」レベルでは「情報要求」の使用率が高いことが明らかとなった。この結果から、李 (2008) の定義で「標識ありの言いさし表現」に属する「けど」類による「言いさし」は、「丁寧度の低いもの」として捉えられ、特に「意志表明」の機能はほとんど果たさないものであるということが言えよう。本稿では、その判断もデータの分析によって検証してみたいと考える。

4. 本研究の枠組み

4-1 考察対象

本稿は、日中両言語の会話文において、「けど」類の「言いさし」と同じ文脈で使用された中国語の用例を考察対象とする。

また、「言いさし」の定義については、田 (2013) 「従属節のみで統語論的には不完全文であるにも関わらず、内容的には完全文と同じような機能を果たしている表現」に従って判断する。

4-2 考察目的

日本語の会話文に使用された「けど」類の「言いさし」は、中国語において、同じ文脈でどのような表現が現れているか、どのように使われているかについて考察することにより、中国語における「けど」類の「言いさし」の扱い方を明らかにする。

4-3 分析資料

分析資料としては、以下のようなデータを使用している。

- I 小説（日本語・中国語）及び翻訳版の会話の部分
- II 映画とドラマ（日本語・中国語）及び翻訳版
- III 『中日対訳コーパス（第一版）』（2003 北京日本学研究センター編）

以上のデータから「けど」類で終わる「言いさし」の用例を取り出して分析する。

4-4 分析方法

4-4-1 分類基準

本稿は、白川（2009）の分類基準に従って考察を行う。

白川（2009）では、「従属節だけで言いたいことを言い終えているかどうか」という基準により、「言いさし」は、(5)のような「言い残し」と(6)のような「言い終わり」に分類されると指摘されている。

- (5) 正樹「今日泊まって行けよ」

慎平「そうしたいんだけどね（ため息をつく）」（白川 2009 : 8）

(5)の「そうしたいんだけどね（ため息をつく）」という発話において、「表現されなかった内容は、聞き手の側で見当をつけなければならない」（白川 2009 : 8）ため、「文字通りの言いさしであり、内容的に未完結である」（白川 2009 : 8）。このような発話は、「言うべき後件を言わずに途中で終わっている文」（白川 2009 : 7）とされ、「言い残し」として分類されている。

- (6) こずえ「ほかにつきあっている女の子いるのかしら？」

響子「さあ……あなただけみたいですけど。」

こずえ「ほんとですか！！」

響子「ええ。」（白川 2009 : 10）

(6)の「さあ……あなただけみたいですけど。」という発話において、発話者の伝えたい内容は、「前件のみで言い尽くされている」（白川 2009 : 10）ため、「母語話者であればこの後に続くべき後件を待っている人はいないだろう」（白川 2009 : 10）。また、その発話の直後を注目すると、聞き手であるこずえが「ほんとですか！！」と会話のターンを取っていることに対し、『相手の発言の途中で割り込んでいる』と感じる母語話者はいないだろう」（白川 2009 : 11）。このような発話は、「従属節だけで言いたいことを言い終わっている文」（白川 2009 : 7）とされ、「言い終わり」として分類されている。

4-4-2 「けど」類による「言いさし」の出現数

表1は、考察対象としたすべてのデータにおける「けど」類による「言いさし」（「言い残し」と「言い終わり」）の出現数をまとめたものである。すべてのデータにおいて、全部で699の「けど」類による「言いさし」が確認できた。

表1 全部の「けど」類による「言いさし」の出現数(単位は実数)

	「言い残し」	「言い終わり」	合計
『日中対訳コーパス』	222 (44%)	284 (56%)	506 (100%)
『ホントの愛は今のうちに』	25 (36%)	45 (64%)	70 (100%)
『ノルウェイの森』	16 (28%)	40 (72%)	56 (100%)
『アテンションプリーズ』	9 (28%)	23 (72%)	32 (100%)
『人間失格』	9 (33%)	18 (67%)	27 (100%)
『駱駝祥子』	3 (75%)	1 (25%)	4 (100%)
『レッドクリフ』	4 (100%)	0 (0%)	4 (100%)
合計	340 (48%)	359 (52%)	699 (100%)

表1から、「言い終わり」と「言い残し」のいずれも多く使用されることが分かる。さらに、「言い終わり」と「言い残し」は、使用回数（「359」と「340」）に大きな差が見られず、同じ頻度で使用されている傾向が伺える。

5. データの分析

5-1 中国語における「けど」類による「言い残し」に関する分析

表2は、同じシチュエーションにおいて、中国語の「けど」類による「言い残し」の扱い方をまとめたものである。

表2 中国語における「けど」類による「言い残し」(P「けど」類。)の扱い方(単位は実数)

接続表現の不使用	「省略型」(P・……)	113 (33%)	196 (58%)
	「終了型」(P。)	83 (24%)	
接続表現の使用	「省略型」(接続表現 P、接続表現…… /P、接続表現……)	98 (30%)	144 (42%)
	「中途終了型」(接続表現 P。)	46 (13%)	
合計		340 (100%)	

表2から、同じシチュエーションにおいて、日本語では接続助詞「けど」類が使用されており、中国語では接続表現の使用及び不使用という二つ場合が観察される。

中国語と日本語は、言語の種類が異なるため、接続表現におけるさまざまな相違点が見られる。最も根本的な相違点は、日本語は、膠着語的特徴として接続表現は従属節への後接が要求されるため、従属節の構文要素への配慮が極めて重要であるに対して、中国語は、孤立語であるため、接続表現は形態的に拘束されずに使われるということであろう。

そこで、形態を重視して形態的な標識が豊かな日本語と、語順を重視して形態的標識に乏しい中国語とでは、同じ場面で使用されて焦点の位置が同じであっても、言語の種類が異なるため、マーカーの位置で相違が生じてくることが予想されるのではないか。そのため、「けど」類の「言いさし」が使用された同じシチュエーションにおいて、中国語の場合は逆接続表現の不使用及び使用という二つのパターンが見られるだろう。

以下では、それぞれのパターンについて具体的に分析していく。

5-1-1 接続表現の不使用

接続表現がない場合には、更に「P……。」という「省略型」、及び「P。」という「終了型」が観察される。下記で分析していく。

I 「省略型」（「P……」）

「けど」類による「言い残し」が使われる場面において、データの中で、文末に省略号（「……」）が付く文が113例見られ、一番よく見られるパターンである。省略号の使用により、省略や発話の途切れが示され、原文の「言い残し」に対応している。

(7) 弥生：どこかってどこ？

関山：あ、タクシー降りた時ありましたけど。

下出租的时候还有……。

(『アテンションプリーズ』)

この会話において、関山は、弥生の質問に対し、「タクシー降りた時ありましたけど」を使い、「今は無くなってしまった」という内容を言い残していると推測できる。同じシチュエーションの中国語の場合、「下出租的时候还有」という平叙文に省略号（「……」）が使われ、句末音調が下がっていることも伴っている。

同じような使い方は、『日中会話コーパス』においても反映されている。

(8) まだお若い、きれいな人ですけど。

那么漂亮的女人，又年纪轻轻的……

(日中対訳コーパス・『金閣寺』)

(9) おいしいものはたべたい。お酒は飲みたい。わたしにはいい着物を着ろ。—これだけならまだいいけれど。

又要吃好，又要酒喝，又要我穿好衣服—光是这些倒也罢了……

(日中対訳コーパス・『あした来る人』)

II 「終了型」(「P。」)

一方、接続表現が使用されていない場合には、発話内容が形式上で終了していることを示した中国語の用例が83例見られ、本稿で「終了型」と名付ける。また、中国語の訳文は、直訳されていない傾向が見られる。

(10) 木下：いつまで持ちますかね、あの子。

太宰：落後者ゼロで行きたいですけどね。

好像会成才的样子。

『アテンションプリーズ』

(10)は、教官である木下と訓練部部长である太宰は、三咲という訓練生について話す時の会話である。太宰は、木下の「いつまで持ちますかね、あの子。」という評価に対し、「落後者ゼロで行きたいですけどね」と婉曲的に自分の意見を表明している。「諦めないでほしい。」という内容が言い残されているが、一方、原文通りに直訳されていない訳文「好像会成才的样子。」は、何か言い残されているように感じないと思われる。

ここでは、原文と訳文の異同を比較するため、岡田(1991)及び水谷(1993)の「共話」に関する研究を取り上げる。

岡田(1991)は、会話のやり取りの型を「対話型」と「共話型」に分け、日本語は、「共話的」姿勢で話されることが多く、英語や中国語ならばどちらかといえば「対話的」な会話のほうが多いと指摘している。日本人は、文を最後まで聞かなくても、相手が意図を察してくれることを期待し、直接相手をめがけてボールを投げるような話し方はせず、相手の自由な判断にまかせ、キャッチのような投げ方をするのであると述べている。

また、水谷(1993)は、共話の特徴について、「共通の理解を前提にし、いちいち相手の聞く意思をたしかめながら話すことであった」(1993:9)と指摘しており、また、日本人は、「途中まで言うことによって、聞き手に結末をつけさせる、あるいはその意思を理解させることができると考えている。相手に発話完成の機会を与えることがプラスとされ、すべてを言い尽くす話し方はむしろ『切り口上』としてうとまれる」と述べている。

そこで、日本語の「言い残し」は、「共話的」な表現として「対話的」な会話しかできない中国語に訳される際に、意味から「残された」内容も訳されているのではないだろうか。

同じような使い方は、『日中会話コーパス』においても反映されている。

(11) こんな見苦しい処で御座ますけれど。

瞧我们家这个脏劲儿。

(日中対訳コーパス・『破戒』)

5-1-2 接続表現の使用

(劉他 1991:735)では、転折複文について、転折意味の重さにより、次の2種類に分けられると述べられている。

- i 重い転折。二つの分句の意味がまったく反対のもので、常用の関連語句は「虽然 P、但是（可是）／否则／不然 Q」などがある。従属節には「虽然」などを用いず、主節だけに「但是／但／可是／然而」などを用いるものもあるが、このような転折複文は口調が和らげられる。
- ii 軽い転折。常用の関連語句には「不过／却／只是／就是」などがある。

そのため、中国語の訳文について、「虽然 P。」、「虽然 P、但是（可是）／否则／不然……」、「P、但是（可是）／否则／不然……」、「P、但／可是／然而……」、「P、但是／但／可是／然而……」の五つのパターンがすべて「転折複文」の主節の省略と考えられる。

また、陳（1993）では、本稿の「けど」類による「言いさし」に相当する「終助詞的用法」について、「譲歩転折復句」、及び「軽い転折復句」の一部が「終助詞的用法」の「けど」「が」との対応が見られると指摘しているが、本稿の考察では、「けど」類による「言いさし」は、「譲歩転折複文」、「一般転折復句」及び「軽い転折復句」という三種類の複文において「けど」類による「言いさし」との対応が見られた。

I 「省略型」（接続表現 P、接続表現……／P、接続表現……）

(12) 美咲：三人一緒じゃなきや！

弥生：それはそうなんだけど。

虽然是那样，不过……

(12) の会話において、弥生は、美咲の提案に対し、「それはそうなんだけど」を使い、「今回は一緒じゃなくていい」という反対の意見を言い残していると推測できる。同じシチュエーションの中国語の場合、「虽然是那样，不过……」という複文が使用され、「不过」という主節において発話内容が省略されている。このような「省略型」は、フェイスを脅かす行為（FTA）を軽減する機能を果たしていると考えられる。

同じような例文は、『日中対訳コーパス』の中においても見られる。

(13) そりゃあ規則は規則ですけれども。

规章是规章、可是……

（日中対訳コーパス・『破戒』）

(14) 年期があけて、挨拶廻りに来ましてな。よく売れた子でしたけれども。

到期来辞行了。虽然她曾是个红人儿、可是……

（日中対訳コーパス・『雪国』）

II 「中途終了型」（接続表現 P。）

(15) 沙織：ねえ、本当にエビのために頑張ってたの？

弥生：そう思いたくなかったけど。

虽然不想这么想。

『アテンションプリーズ』

この会話は、美咲洋子さんの「試験に合格したら、エビの天ぷらがもらえるので、頑張っていた」という発話に対するクラスメート達の会話である。弥生さんの「そう思いたくなかったけど。」という発話に、「実はそうかもしれません」という内容が言い残されている。同じシチュエーションの中国語の場合に、「虽然不想这么想。」という「譲歩転折復句」の従属節のみが使用されている。

同じような例文は、『日中対訳コーパス』の中においても見られる。

(16) 何もございませんけど。

虽说没什么东西。

(日中対訳コーパス・『斜陽』)

以上の分析により、「言うべき後件を言わずに途中で終わっている文」(白川 2009 : 7)という「言い残し」(P けど類。)を表す場合、省略や発話の途切れを示す省略号「……」で終わる文、及び発話内容が句点で終わる文を頻繁に使用していることがわかる。

5-2 「けど」類による「言い終わり」の対応関係に関する分析

表3は、中国語における「けど」類による「言い終わり」の扱い方をまとめたものである。以下では、具体的に分析していく。

表3 中国語における「けど」類による「言い終わり」(M「けど」類。)の扱い方(単位は実数)

接続表現の不使用	「終了型」(M。)	176 (49%)
	「省略型」(M……)	129 (36%)
	語気助詞の使用 (M 啊/呢)	54 (15%)
接続表現の使用		0
合 計		359 (100%)

表3から、同じシチュエーションにおいて、日本語の原文では接続助詞の「けど」類は使用されており、中国語の訳文では接続表現は使用されていないことがわかる。以下では、詳しく分析していく。

5-2-1 「終了型」(M。) 176 例

「けど」類による「言い終わり」と同じようなシチュエーションで使用された中国語の場合、「けど」類の以外の部分のみ陳述する例文が多く見られる。

(17) 三神：ところで美咲さん、ご自分の服どう思われます？

美咲：いいと思いますけど。

我觉得很好。

『アテンションプリーズ』

この会話は、三神教官と訓練生の美咲との会話である。スーツを着てない美咲は、教官の質問に対し、「いいと思います」という断定の会話に「けど」を加えることによって語気を和らげることができる。一方、同じようなシチュエーションで使用された中国語の会話においては、「我觉得很好。」という断定文が使用されている。

同じような例文は、『日中対訳コーパス』においても数多く見られている。

(18) 絶対に許さなかつたですけど。

我可绝对不答应。

(日中対訳コーパス・『あした来る人』)

(19) という訳で、瀬川さんにも御話したのですが。

因此，我已把这个打算告诉了濂川君。

(日中対訳コーパス・『破戒』)

5-2-2 「省略型」(M……) 129 例

「けど」類の「言い残し」が使われる場面と同じように、「けど」類の「言い終わり」において、省略号「……」が付く文が多く見られ、句末音調が長くピッチが緩やかに下がっているという音声的な特徴を示している。

(20) 社長：当社で勤務されてどのくらいになりますか？

社員：ええと、12年になりますが。

呃……12年了……

『ホントの愛は今のうちに』

この会話は、社長が社員を辞めさせる際に前置きの会話である。実情を知らない社員は、「12年になりますが。」という発話により、社長の次の発話を聞きたいという、発話を引き出す意図を示している。それに対し、中国語の場合においては、文字上で省略号が使われ、音声上で句末音調が下がることにより、相手の発話を引き出す機能を果たしている。同じような例文は、『日中対訳コーパス』においても数多く見られている。

(21) うんと高いのでしょうか。少しなら、私、持っているんですけど。

贵吗，钱不多的话，我有……

(日中対訳コーパス・『斜陽』)

(22) 実は——僕は、あの友達を助けて頂きたいと思って、こうして貴方に御話しているような訳ですが。

实话说，我这样和你说话，无非是希望你能够帮忙这位朋友……

(日中対訳コーパス・『破戒』)

5-2-3 語気助詞の使用(M 啊/呢) 54 例

文末に置かれる語気助詞は、「話し手の表現意図や情意を示す語調」を表すことができ(劉他 1988)、「啊」(前の音節の影響により、「呀」、「哪」などの音声形式も現れる)、「吧」、

「呢」、「么」などが挙げられる。また、平叙文の文末に使用される「啊」、「呢」は、語気を和らげることができ、それぞれ「注意喚起」、「対比」という機能を果たしている（劉他1988）。

本稿の考察により、「けど」類による「言い終わり」は、「啊/呢」に訳される例文が多く見られ、「けど」類による「言いさし」の「主張を和らげる」という発話機能を果たす際に対応しているのではないかと思われる。

(23) お客様のスコップなら、そっちにありますけど……

客官您用的铁铲、就在您身边呀 (日中対訳コーパス・『砂の女』)

(24) その信念が先生の心に好く映る筈だと私は思いますが。

我觉得这种信念，应该明显地反映在先生的心里呀 (日中対訳コーパス・『こころ』)

6. おわりに

日本語の会話文に使用された「けど」類による「言いさし」は、中国語において、同じ文脈でどのように扱われているかについて考察を試みた。

さらに、考察に基づき、以下の結論が得られた。

まず、日本語の会話文を全体的にまとめると、全部で699の「けど」類による「言いさし」が確認でき、そのうち、「言い終わり」と「言い残し」とは、ほぼ同じ頻度で使用されたことがわかる。

次に、同じ文脈で使用された中国語の会話文を考察してみると、「けど」による「言い残し」の場合は、「けど」類の代わりに、接続表現を使用しない「省略型」及び接続表現を残す「省略型」の用例が多く見られた。一方、「けど」類による「言い終わり」の場合は、「言いさし」のマーカを除いて命題のみ述べる以外、語気助詞「啊/呢」を使用する例文も存在することが明らかになった。

考察により、陳(1993)の「話し手の気持ちや発話態度を表す文末の「けど」「が」は、「中国語ではほとんど訳すことができないといっても、過言ではない」という判断は不十分ではないかと思われる。

本稿では、訳文をデータにして考察を行ったが、訳者の言語習慣によって言語形式も変わるという問題点が残っている、今後日本語と中国語のそれぞれの言語における「言いさし」の使用実態についてさらに考察していきたい。また、中国語における接続表現の機能、「けど」類と語気助詞との対応について、今後も課題として考察していきたい。

分析資料・用例出典

コーパス

『中日対訳コーパス』（第一版公開：2003年7月、北京日本学研究中心）

以下を収録

文学作品：中国 23 篇、日本 22 篇（合計 105 件、約 1130.3 万字）

文学以外：中国 14 篇、日本 14 篇、日中共同 2 篇とその訳本（合計 45 件、約 574.6 万字）

小説資料

『人間失格』（太宰治、2009、角川書店）；『人間失格』（许时嘉訳、2009、吉林出版集团有限责任公司）

『ノルウェイの森』（村上春樹、2004、講談社）；『挪威的森林』（林少华訳、2001、上海译文出版社）

『骆驼祥子』（老舍、1962、人民文学出版社）；『骆驼祥子』（立間祥介訳、1980、岩波書店）

ドラマ・映画資料

『アテンションプリーズ』（フジテレビ、2006、610 分）；《甜心空姐》（上海东方电影频道、2007、610 分）

『ホントの愛は今のうちに』（東宝、2014、1711 分）；《真愛趁現在》（采昌國際多媒體、2013、1711 分）

『レッドクリフ』（エイベックス・ピクチャーズ、2009、291 分）；『赤壁』（北京北影录音录像公司、291 分）

参考文献

岡田安代（1991）「日本人はなぜ文末まで言わないのか？－会話を成り立たせる「共話」の原理－」『月刊日本語』4（1）、pp.9-13

荻原稚佳子（2011）「日本語母語話者による自由会話における「言いさし」の使用と解釈」『明海大学外国語学部論集』23、pp.1-17、明海大学外国語学部

黄成穩（1990）『複句』人民教育出版社

三枝令子（2007）「話し言葉における「が」「けど」類の用法」『一橋大学留学生センター紀要』10、pp.11-27、一橋大学留学生センター

白川博之（2009）『「言いさし文」の研究』くろしお出版

陳美玲（1993）「日本語の「けど」「が」と中国語の"但是"系の比較研究：翻訳小説を例として」『言語文化と日本語教育』6、pp.47 - 58、お茶の水女子大学日本言語文化化学研究会

田昊（2013）「「言いさし」の「けど」類の使用実態に関する一考察」『日本語教育』156、pp.45-51、日本語教育学会

- 鳥井克之 (2004) 「再論 中国語の複文について—新しい中国語教学文法の再構築を目指して—」
『関西大学外国語教育研究』8、pp.75-97、関西大学
- 水谷信子 (1993) 「「共話」から「対話」へ」『日本語学』4月号 Vol.12、明治書院、pp.4-10
- 李曉博 (2008) 「日中両言語における言いさし表現の使用状況についての考察—発話機能とスピーチレベルの観点から—」『文体論研究』54、pp.1-16、日本文体論学会
- 劉月華・潘文娉・故鞏著、相原茂監訳 (1988、1991) 『現代中国語文法総覧』(上・下) くろしお出版

(でん こう Tian Hao 言語社会研究科博士課程)